

議 事 の 経 過

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
課長	<ul style="list-style-type: none"> ●開 会 ●委嘱状交付 ●定数報告 出席者：7人 欠席者：5人 (上尾市男女共同参画推進条例「第17条2項の規定」により成立) ●自己紹介
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ●第2回審議会開催 資料確認 ●会長の選出 事務局より前会長の石川委員を推薦 異議なし
会長	<ul style="list-style-type: none"> ●会長挨拶 ●職務代理者の選出 石川会長より前職務代理者の船生委員を推薦 異議なし ●非公開内容の確認 非公開内容はなし 会議は公開 ●傍聴希望者の確認 傍聴希望者は1名
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ●議事 第4次上尾市男女共同参画計画（素案）について これまでの計画策定に進捗状況及び今後のスケジュールについて説明
サーベイリサーチセンター（SRC）委員	<p>第4次上尾市男女共同参画計画（素案）の概要、前回会議での報告からの変更点について説明</p> <p>まず、素案69頁に進行管理について記載がある。女性の登用率等のデータについては年次報告を貰っているが、市民意識調査は毎年度把握ができないということで中途評価による改善がなされていない。5か年計画</p>

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
課長	<p>は中間年に中間評価を行って進捗を確認し、改善していく流れがあるが、第4次計画を効果的に改善するような施策と、その評価についての考え方をお聞きしたい。</p> <p>二点目は、市民意識調査で市の意識や実態を把握し、それをもって評価していくが、市民意識調査は回収率が低く、回答者が高齢層に偏っているため、結果自体が「封建的」になっている。これを上尾市の実態として示して評価してよいものか疑問に思った。</p> <p>まず一点目の評価について、5年先の目標に向けて取組を進めるうちに、乖離が生じると考えられる。市の横断的な組織体で計画を進行するうえで変えたほうがよい部分をチェックし、より具体的な取組、アクション部分の見直しを図りたい。</p> <p>二点目のアンケート調査については、対象者の抽出時に人口構成比を基に抽出を行うため、上尾市は団塊の世代が多い人口構成になっていることから、回答者としても高齢層が多くなってしまう。高齢層の方からの回答には、男女共同参画にまつわる大変な経験をされた世代でもあり、それを回答することで社会を変えられたら…という思いもあるのではと考えている。施策検討にあたっては、対象となる年齢層がそれぞれ異なるため、全体結果だけを根拠とするのではなく、対象者ごとに結果を見ながら進めていくものと考えている。</p>
SRC	<p>補足として、近年はどの自治体においても回収率の低下、特に若年層や働き盛り・子育て世代の回収率の低さが課題となっている。そのため、先程の説明のように全体結果だけでなく属性のクロス集計結果を分析して事業展開を検討していきたい。今後の調査手法としては、調査対象者を限定するなどが考えられるため、5年後の評価に向けて今後も議論をいただきたい。</p>
委員	<p>今回から回答方法にWEBが追加され、回答が簡易になったと考えられる。しかし、設問によっては自分にあまり関係のない分野なども含まれていることから、回答離脱者や回答に頭を悩ませる人もいると推測される。そのため、積極的に回答できる人が回答できるような形式を検討していただきたい。</p> <p>また、重点項目を今回も設定しているが、市レベルで取り組んでもなかなか改善につながりにくい項目があると思われる。そのあたりの補足や取組の方向性があればお話いただきたい。</p>
SRC	<p>アンケートの特性上、全員が回答できる形式にする必要がある。そのため、設問の内容から該当しない人が発生すると想定されるものについては、「特になし」などの選択肢を設定している。また、より実態に即した数値をみるという観点で、属性等のクロス集計で対象者を絞り込み、数値を見るといったことも行っている。近年は全体的に回答協力意向が減少していることから、簡潔な調査設計の重要性が増している。5年後の調査時はそのあたりも踏まえて設計を検討していきたい。</p>

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
課長	待機児童の解消とワーク・ライフ・バランスに関する施策の関連性の検証や、市と企業の取組の線引きが難しい。市として取り組める施策としては企業への啓発等に限られてしまう。今回指標に追加している多様な働き方実践企業の認定は、市ではなく県の制度である。市が同様の制度を設立しても二番煎じになり非効率と考え、周知啓発を市は行うものとしている。市で完結する取組を考えることには難しい部分がある。
会長	子育ての有無による意識の違いなどはクロス集計で確認することは可能か。
SRC	可能である。
委員	62 頁の 119 番、63 頁の 113 番に「男女共同参画推進者制度」とあるが、既存制度か。 また、69 頁の進行管理に関する文章 2 行目に「男女平等推進委員会」とあるが、これはどの機関なのか。
事務局	一点目、男女共同参画推進者制度は既存事業で、来年度以降も継続予定である。 二点目の「男女平等推進委員会」は誤記であり、正しくは「男女共同参画推進本部」である。
委員	19 頁、固定的性別役割分担意識について、自分は「どちらともいえない」と感じている。家庭の事情は様々であるため、どちらでもないというように受け取られているのではないか。どのような聞き方をしているのか、また、質問によっては「どちらともいえない」を増やすべきではないか。 二点目、男性の育休取得について、上司が取得していたら取らざるを得ないというパターンもあり、取得が目的になっている懸念がある。男性の育休取得者がきちんと家事等に取り組んだのか調査をしてみてもよいのではないか。 また、46 頁、男女共同参画センターへの相談実施回数について、理想は相談がないこと、つまり 0 件ではないか。相談に繋がらないケースを踏まえての数値設定かと思うが、補足があったほうがわかりやすい。
会長	指示がないと動けない男性について話題に上がることがある。取得率は上昇しているものの、実態はどのようなになっているのか確認できているのか。
課長	固定的性別役割の設問は、県との比較の観点から、県の表現に揃えている。意図が見えにくい部分もあるため、今後検討したい。 男性育休については、国でも数値を上げることが目標になっている。女性活躍推進の観点から男性育休の取得を促進しているが、その目的をきちんと啓発したい。また、男性の育休取得は近年急増しているが、現在はまだロールモデルがいらないために、何をすればよいかわからないとい

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
会長	<p>うところもあるのかもしれない。国の調査を見ても女性の家事負担が減っていないことから、男性の家事スキルの向上、育休取得時の適切な行動に関する啓発が重要であると感じている。</p> <p>相談件数について、ご指摘の通り目指すべきは0件だが、依然として市役所で相談を受け付けていること自体を知らない人が多い。これは相談を確実に受けるという趣旨の項目であることを補記したい。</p> <p>固定的性別役割分担や男女の地位の平等感は価値観の問題のため、押し付けがましいと思われなくようにするのが難しい部分だと思う。</p> <p>育休取得についても男性の自己満足になっていないか注意が必要だ。現在は過渡期のためロールモデルが今後増えてくれば、男性同士の経験共有ができてくる。男性の育休取得時に女性側にアンケートを取ることで、実態を把握できるのではないかと。夫婦での意識共有が重要だと思うので、職場の中で差し支えの無いデータを把握して公表してはどうか。</p> <p>相談件数の目標値について、たとえば性犯罪の発生件数が北欧では多く、日本では少ないことと似ている。つまり、北欧では性犯罪の成立を幅広く認め、捜査機関が認知しているのに対し、日本ではそうしていないために見た目の件数が低くなっていることである。相談に値するケースが相談に至っていないことが多いため、この項目の趣旨はそうした相談に繋がる人を増やしたいことだと理解している。</p>
委員	<p>ロールモデルは非常に重要だと感じている。以前、「男性のための」と謳っている料理教室に参加したところ、内容は性別を問わないものだった。性別にかかわらず、必要な能力を獲得したい人が受講できるように、「女性／男性のための」という表現を使用しない方がよいのではないかと感じた。</p>
委員	<p>市内公共施設のトイレの数に関する数値目標等はあるのか。市民体育館のトイレは女性よりも男性の方が多くなっていたが、逆のほうが良いのではと感じた。何らかの基準を設けているはずだが、実態とそぐわないのではないかと。</p>
課長	<p>市のデータは今手元にない。施設の目的に合わせて数は調整されるものだと思うので、今後担当部署に共有していきたい。</p>
会長	<p>民間企業などが独自でデータを取っていることもあるが、市としてまとまったデータはないのではないかと。何かデータがあれば次回までにいただきたい。</p>
委員	<p>46 頁の数値目標について、一つ目と二つ目は実績ではないかと。</p>
事務局	<p>出典を確認する。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールについて説明</p>

発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	女性の生きづらさに関するセミナーではこどもの託児はないのか。
課長	託児は予定していないが、足を運ぶことができない人のために動画配信を検討している。
事務局	以上を持ちまして、上尾市男女共同参画審議会 令和7年度第2回会議を終了します。ありがとうございました。